

令和4年度

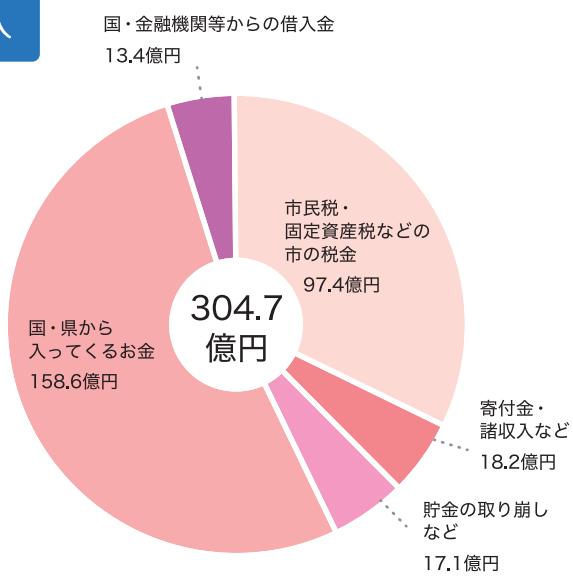
私たちの税金は、 どう使われた？

決算

一般会計

税金などを財源とし、福祉や教育、まちづくりなど市の基本的な行政サービスを行うための会計です。このほかに、特別会計（国民健康保険事業特別会計など）、企業会計（水道事業会計など）があります。

歳入



【前年度比 △2.1億円 △0.7%】

市民1人当たり 44.6万円

市民協働・安全・
交通など
4.8億円

議会運営など
2.2億円

消防・防災など
8.9億円

借入金の返済
26.5億円

農業・観光・
商工業など
21億円

教育・文化・
スポーツなど
26.2億円

健康・ごみ・
環境など
28億円

道路・河川・
公園など
30.3億円

市役所の管理・
運営など
37億円

289.7 億円

子ども・高齢者等
の福祉など
104.8億円

歳出

【前年度比 △5.1億円 △1.7%】

市民1人当たり 42.4万円

実質収支は、12.2億円の黒字

歳入額から歳出額を引いた15億円から、令和5年度へ繰り越して使用する2.8億円を引いた金額です。

主な取組

〈新型コロナウイルス・物価高騰対策〉

新型コロナワクチン接種関連

集団・個別接種の実施や接種体制の確保など

2億5,624万円



給食費補助事業

保育所・幼稚園・小中学校等の給食費の一部補助

1億9,585万円



電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金

住民税非課税世帯への支援

1億8,375万円



さば割クーポン発行事業

さば割クーポン発行による市内小規模店の消費喚起

1億3,915万円



〈そのほかの取組〉

ふるさと納税推進事業

返礼品や納税サイト増設などのふるさと納税の推進

4億282万円



食品産業の輸出向け施設整備費補助金

輸出拡大のための施設・機械の整備

3億3,571万円



北陸新幹線関連道路整備事業

北陸新幹線延伸に伴う、市道の付け替え工事など

7,765万円



出産・子育て応援事業

妊娠から出産・子育て期までの伴走型相談支援と

妊娠・出産時における経済支援

5,594万円



※金額は端数処理をしています。

※市民1人当たり金額は、令和5年11月末の人口で計算しています。

総務分科会

早期に退職する職員が多い理由は？

- Q 退職者24人のうち、定年以外の早期退職者が13人となった理由は、個人の事情よりも、市役所組織に問題があるからではないのか。
- A 若い職員の退職者が多いが、結婚や転職などの若年層ゆえのライフステージの大きな変化や職業観の多様化による影響が大きいためと思われる。
- Q うつ病などの精神的な病気になる職員も多いが、休職後の職場復帰を支援する体制は整っているのか。
- A 不安軽減のため、勤務時間や職務内容を調節するなどの「試し勤務」を実施している。また、精神科医によるメンタルヘルス相談を毎月1回程度行い、復帰後の状態を確認し、疾患の再発防止を図っている。

組織の課題として対策を

産業建設分科会

海外で売れる商品開発の成果は？

- Q 海外で売れる商品を開発し、消費者動向調査を行う目的で、越前漆器協同組合に300万円の支援をしているが、ヨーロッパ市場での売上結果は80万円であり、十分な成果があったとは言い難い。

この結果を踏まえ、今後どのような施策につなげていこうと考えているのか。

- A ヨーロッパでは、日本文化、特に伝統工芸への関心が高く、丁寧な製造過程や素材の貴重さを伝えることで、国内の2倍以上の価格でも良心的と受け止められ、3～5万円以上の高価格商品の購入もあった。また、機能性よりもインテリアとしてのデザイン性を重視する傾向をつかめたことも大きな収穫だった。

今後は、各事業所の特色ある商品とマッチする市場に向けた商品開発や販路開拓につなげていきたい。



目標や成果を見据えた
施策設計を

令和4年度

決 算 審 査

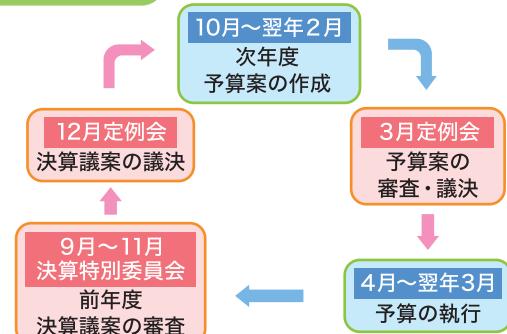
決算特別委員会

令和5年9月から11月にかけて、前年度の予算の執行が適切に行われたかを審査しました。審査で出された意見や要求などは、令和6年度の予算編成に反映されます。

議決の詳細は、p.14に掲載しています。

認定

予算～決算の流れ



教育民生分科会

子ども子育てトータルサポート事業の課題と今後は？

- Q 産まれる前から小学校入学までの、子どもの成長過程に応じた7つの支援事業を実施し、育児の相談や支援事業への参加につなげることを目的としているが、課題や今後の方針は。

- A 経済的な支援を含めた、育児の相談や様々な支援事業への参加につながっている。課題としては、情報を「広報さばえ」や支援センター発行の「子育て支援ネットワークだより」、市の公式LINEやホームページ、各SNSなどで発信しているが、分かりにくい等の意見があるため、市内外に広く周知できるよう、子育て中の若手職員を中心に検討しているところである。

今後も安心して子どもを産み育てるのできる環境づくりを進め、市全体で子どもの成長や子育てを応援していくまちになるよう努めていく。



市全体で子育てを
応援できるまちに